



日耳鼻医学会 F A X ニュース NO 182

平成23年11月9日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimu@jenti.or.jp HP <http://www.jenti.or.jp>
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

次期診療報酬改定に向けて要望書提出

日耳鼻医学会は10月24日、厚労省医療課長あてに耳鼻咽喉科としての立場から、前回の改定には多くの耳鼻科医が異論を持っていると言うことを述べた上で次の4点についての要望書を理事長名で提出した。

1. 保険証の資格確認がオンラインでリアルタイムで出来るように保険者へ周知徹底。
2. 耳鼻科特定疾患指導管理料の対象疾患の拡大。
3. 地域医療貢献加算の算定要件の見直し。
4. 処置点数に対する乳幼児加算の算定。

皆保険堅持へ、定額負担・TPP「強烈に反対」

日医の臨時代議員会は10月23日、日医会館で開かれ、受診時定額負担の導入やTPPへの参加など国民皆保険を脅かしかねない政策に危機感を示す意見が相次いだ。原中勝征会長ら執行部は国民皆保険堅持に向けて断固として反対する意向を示した。

原中会長は受診時定額負担は「国民皆保険は国民全体の連帯で営むもの。老人や経済的な不安がある人からさらに徴収することは反対」とし、署名活動などの反対運動を「強烈に行うつもりだ」と述べた。

TPPについては挨拶で「このまま参加すれば国民皆保険が崩れていくだろう」としたうえで「そもそも医療が含まなければ米国にメリットがないはず」とし根本的に反対するとした。

受診時定額負担反対で全国規模の署名運動

日医など国民医療推進協日医など医療関連40団体でつくる国民医療推進協議会(会長=原中勝征・日医会長)は、医療機関を利用するたびに一定額を患者から徴収する「受診時定額負担」に反対する署名運動を始める。日医が10月12日に開いた記者会見で明らかにした。今後、署名用紙を全国に発送し、11月末までに集計する方針だ。衆参両院議長などに請願する形で、制度導入の中止を求める。

混合診療「禁止は適法」確定

最高裁、原告側上告を棄却

保険診療と保険外診療を併用する「混合診療」で保険適用が認められないのは不当だとして、がん患者の男性が保険適用の確認を求めた訴訟の上告審判決で最高裁は10月25日、混合診療の原則禁止を適法として二審判決を支持、原告側上告を棄却し、原告側敗訴が確定した。

判決で無制限に混合診療を認めると患者負担の不当な増加を招くなどの懸念から、混合診療は認めないのが原則とされてきたと指摘。それを前庭に特定の診療に限り混合診療を認める「保険外併用療養費制度」があるとし、「法律上の文言

は明瞭でないものの、法体系全体の整合性からすれば、同制度に該当しない混合診療は一切保険対象外とする解釈が導かれる」と結論付けた。法の下での平等を定めた憲法に反するとの原告側主張には「安全確保や財源の制約などから、保険提要の範囲を合理的に制限することはやむを得ない」とした。5人の裁判官全員一致。ただ、4人が国に制度の運用改善などを求める個別意見を付けた。(日経新聞 10/26)

【TPP(環太平洋経済連携協定)】

TPPとは、輸出入に関しては例外を設けない多国間の新たな自由貿易協定であり、モノだけでなく、サービス、労働などの市場開放も勧める構想。2国間の自由貿易協定(FTA)に続いて、TPPが急速に広がろうとしている。

TPPが締結されれば原則的には高関税は撤廃され、海外から安価で、品質もそれなりの品物が流入する。また、人件費の安い外国人医師の流入も予想される。

医師は現在、各国が国家資格である医師免許によって、海外からの安易な医師流入を阻み、医療の質を維持している。TPP参加によって、こうした国家資格が共通化されるかどうかはまだ定かではないが、コストの安い外国人医師の流入による医療市場でのダンピング競争が予想される。また、外国の医療法人の日本市場参入も当然活発化すると見られる。

(Medical confidentialより抜粋)

【ISD条項】(慎重派、反対派が懸念するTPPに盛り込まれる条項)ある国家が自国の公共も利益のために制定した政策によって、海外の投資家が不利益を被った場合には、世界銀行傘下の「国際投資紛争解決センター」という第三者機関に訴えることができる制度。

「薬剤の審査上認める適応外使用(耳鼻咽喉科関係分)」社会保険診療報酬支払基金公表 (9月26日)

社会保険診療報酬支払基金 HP <http://www.ssk.or.jp/shinsajoho/teikyojirei/yakuzai.html>

一般名	主な商品名	使用例
イソソルピド	イソバイド、メニレットゼリー	「急性低音障害型感音難聴」「内リンパ水腫」
アルプロスタジル	リプル注	「突発性難聴」
アルプロスタジルアルファデクス	注射用プロスタンディン	「突発性難聴」
ポラブレジンク	プロマックD錠、プロマック顆粒	「味覚障害」
d-カルフェニラミドリン酸塩・ハタメタゾン配合	セレストアミン配合錠・セレストアミン配合シロップ	「好酸球性副鼻腔炎」
アデノシン三リン酸二ナトリウム	アデホスコウ顆粒、アデホスコウ腸溶錠	「内耳障害に基づく耳鳴症」「感音難聴」
カルボプラチン	カルボプラチン点滴静注液、注射用カラプラチン	現行の適応症に対し動脈注射として使用した場合
シスプラチン	ランダ注、プリプラチン注、プラトシン注	現行の適応症に対し動脈注射として使用した場合
溶連菌抽出物	ピシパニール注射用	「がま腫」
バラシクロビル塩酸液	バルトレックス錠、バルトレックス顆粒	「特発性末梢性顔面神経麻痺(ベル麻痺)」